

## 愛知県名古屋市 医療法人十全病院



### 1. 火災の特色

この火災は、自力避難が不可能な老人等が多数収容されている病院から発生し、調理室等約35㎡を焼損したものである。出火は職員が多数勤務していた昼間であり、患者全員が職員によって避難させられ、死傷者はでなかった。多数の自力避難困難者を収容する施設の救出事例の参考となる。

### 2. 出火日時等

#### (1) 出火日時

昭和63年4月11日(月)12時10分頃

#### (2) 覚知時間(覚知方法)

昭和63年4月11日(月)12時20分(119番通報)

#### (3) 鎮火時間

昭和63年4月11日(月)14時14分

### 3. 火元の概要

#### (1) 所在地

愛知県名古屋市瑞穂区茨木町88番地

#### (2) 火元建物等の名称

医療法人 十全病院

#### (3) 火元建物の構造等

- ① 建築年月日  
 木造部分：昭和42年7月10日  
 耐火構造部分：昭和60年2月27日
- ② 増改築の状況  
 なし
- ③ 建物用途  
 病院（6項イ）
- ④ 構造  
 耐火構造一部木造2階建
- ⑤ 面積  
 延べ面積：1,419.0㎡
- ⑥ 収容人員等  
 ア 従業員 35名  
 イ 入院患者 54名（木造部分2階：29名、耐火構造2階：25名）  
 ウ その他 3名
- ⑦ 建築物階層別用途及び面積

|        | 建築面積   | 延べ面積     | 用途     |
|--------|--------|----------|--------|
| 木造部分   | 347.0㎡ | 650.0㎡   | 病室、治療室 |
| 耐火構造部分 | 381.0㎡ | 769.0㎡   | 病室、治療室 |
| 計      | 728.0㎡ | 1,419.0㎡ |        |

(4) 消防用設備等の設置状況

- ① 消火設備  
 消火器、屋内消火栓設備
- ② 警報設備  
 自動火災報知設備
- ③ 避難設備  
 誘導灯、避難器具
- ④ 消火活動上必要な施設  
 なし

(5) 防火管理の状況

- ① 防火管理者  
 昭和61年3月25日選任
- ② 消防計画  
 昭和62年4月18日届出
- ③ 避難訓練の実施状況

患者の避難訓練や消火訓練を中心とした訓練を毎年2回以上実施していた。

#### 4. 気象状況

(1) 天候

晴れ

(2) 風位、風速

風位：西、風速：1.6m/s

(3) 気温、湿度

気温：17.9℃、湿度：26.0%

(4) 気象注意報等

なし

#### 5. 出火原因

(1) 発火源

調理室の煙突

(2) 経過

煙突の取り付け部分の木部が炭化していたところが低温着火したもの。

(3) 着火物

煙突の取付け部分の木部

#### 6. 損害状況

(1) 人的被害状況

① 死者

なし

② 負傷者

なし（ただし、重症患者4名を救急車2台で他の病院に搬送した。）

(2) 物的損害状況

① 火元建物

ア 焼損程度 部分焼

イ 焼損面積 約35㎡

ウ 損害額 5,738千円

② 類焼建物

なし

#### 7. 火災の経過（火災の様態）

(1) 出火場所の状況

1階天井付近に設けられた換気扇取り付け部分

(2) 出火に至るまでの状況

長期にわたる煙突の過熱で木部が炭化していたところから出火したもの。

(3) 火災発見の経緯

火災発見者の事務長は、自動火災報知設備のベルにより受信盤を確認「西階段」の窓が点灯、階段付近を確認し調理場に行き、換気扇付近が燃えているのを発見した。

(4) 消防機関への通報状況

女子職員が事務長に指示されて119番通報している。

(5) 初期消火の状況

火災の覚知後、調理師のほとんどは水道ホースで換気扇や外壁に水をかけて消火活動を行っている。また、他の職員によって粉末消火器2本、泡消火器1本で初期消火活動が行われ、屋内消火栓設備も活用されて35㎡の焼損でまぬがれた。

(6) 火災拡大の状況

部分焼にとどめている。

(7) 自衛消防隊の活動状況

患者の中で自力避難可能な22名は自力避難したが、自力避難の不可能な患者32名は病院関係者及び消防隊により救出された。

(8) 避難の状況

患者の中で自力避難可能であった者は22名であり、この内のほとんどは自力避難してしたが、煙で危険が迫った木造部分ではとっさに動けず、看護婦に誘導されたり、かかえられたりして避難している者が多数見られた。また自力避難の不可能な患者32名のうち18名が病院関係者により屋外へ搬送され、14名が消防隊により救出された。

(9) 死者の状況

なし

## 8. 消防機関の活動状況

(1) 出動隊等

① 出動車両

常備 15台、非常備 3台

② 出動人員

常備 52名、非常備 10名

消防隊は到着後、関係者からの救出状況を聞き、救出のすんでいない部屋の検索救助にあたり、14名を一時避難場所へ救出した。

## 9. 問題点・教訓

(1) この火災は幸いにも死傷者を出さずにすんだものである。この理由として時間が昼間であり、職員30名が避難誘導や救出にあたる事ができたことがあげられる。避難救出状況の別表を見ると、自力避難ができない患者32人のうち半数の16名が看護婦等病院の関係者により屋外に避難させられ、残りの半数が消防隊等によって救出されている。救出状況不明の14名の患者は、ほとんど自力避難したものと考えられる。しかしこれが職員の手薄な夜間であってもこのように避難誘導できる体制をとる必要がある。

(2) 看護婦等は、自力避難困難者を救出する方法として、患者をシーツ等に乗せて2名で引っ張

り出している。自力避難困難者を抱えて救出することは力を要することから、容易に救出できるような施設づくりと訓練を行うことが有効である。

- (3) 病院関係者の救出作業は、最初は、危険の迫った火点直上の217号室から開始されており、患者を数人がかかえて運んでいる。しかし、煙が急速に充満したため、その後はそれぞれ独自で部屋へ入り、体を引きずったり、シーツでくるんで引きずって運んでいる。当初は担架の使用も見られたが、1人を搬送するために複数の人員を要するため能率の悪さが目立った。その半面シーツや毛布で引きづる搬送方法は極めて有効であったが、搬送方法を患者の状態毎に研究する必要がある。

入院患者の避難救出状況  
耐火造部分

| 部屋  | 性 | 年齢 | 自力避難の可○否× | 救出状況              |
|-----|---|----|-----------|-------------------|
| 特1  | 女 | 72 | ×         | 看護婦3名がふとんのままかかえて  |
| 特2  | 女 | 77 | ×         | 看護婦4名と家政婦1名かかえて   |
| 特2  | 男 | 60 | ×         | 看護婦4名と家政婦1名かかえて   |
| 201 | 男 | 48 | ○         | 不明                |
| 201 | 男 | 83 | ×         | 看護婦が毛布ごとかかえて      |
| 201 | 男 | 85 | ×         | 看護婦が毛布ごとかかえて      |
| 202 | 男 | 73 | ○         | 看護婦に点滴を外してもらって自力で |
| 203 | 女 | 74 | ×         | 不明                |
| 203 | 女 | 87 | ×         | 不明                |
| 205 | 女 | 95 | ×         | 家政婦がおぶって          |
| 205 | 女 | 80 | ×         | 息子の奥さんがかかえて       |
| 206 | 男 | 72 | ○         | 不明                |
| 206 | 男 | 80 | ○         | 不明                |
| 206 | 男 | 67 | ○         | 不明                |
| 206 | 男 | 74 | ○         | 不明                |
| 207 | 女 | 73 | ○         | 不明                |
| 207 | 女 | 79 | ○         | 不明                |
| 207 | 女 | 59 | ○         | 不明                |
| 208 | 女 | 67 | ○         | 不明                |
| 208 | 女 | 66 | ○         | 看護婦がかかえて          |
| 208 | 女 | 87 | ○         | 不明                |
| 208 | 女 | 64 | ×         | 不明                |
| 210 | 女 | 77 | ○         | 誰かに誘導されて          |
| 210 | 女 | 60 | ×         | 看護婦とあと1名でシーツでつって  |
| 210 | 女 | 85 | ○         | 不明                |

## 木造部分

| 部屋  | 性 | 年齢 | 自力避難の可○否× | 救出状況               |
|-----|---|----|-----------|--------------------|
| 211 | 女 | 70 | ×         | レントゲン技師と消防隊がかかえて   |
| 211 | 女 | 73 | ×         | 医師と消防隊がシーツを使用して    |
| 211 | 女 | 78 | ×         | 消防隊                |
| 211 | 女 | 75 | ×         | 医師と消防隊がかかえて        |
| 212 | 女 | 64 | ×         | 消防隊2名がかかえて         |
| 212 | 女 | 81 | ×         | 院長がかかえて            |
| 212 | 女 | 85 | ×         | 家政婦と看護婦がひきずって      |
| 212 | 女 | 81 | ×         | 義足をつけ家政婦が誘導        |
| 213 | 男 | 64 | ×         | 消防隊が窓より救出          |
| 213 | 男 | 66 | ×         | 看護婦の誘導で消防隊が救出      |
| 213 | 男 | 75 | ×         | 消防隊で担架救出           |
| 213 | 男 | 81 | ○         | 看護婦の誘導で消防隊が救出      |
| 215 | 女 | 89 | ○         | 外来の人に救出された         |
| 215 | 女 | 85 | ×         | 外来の人に救出された         |
| 215 | 女 | 95 | ×         | 事務長と消防隊が担架で        |
| 215 | 女 | 77 | ○         | 看護婦に誘導されて、自力で      |
| 216 | 女 | 84 | ×         | 看護婦3名と家政婦がシーツで     |
| 216 | 女 | 90 | ×         | 看護婦3名と家政婦がシーツで     |
| 217 | 男 | 77 | ×         | 婦長と看護婦4名がシーツで      |
| 217 | 男 | 71 | ×         | 婦長と看護婦4名がシーツで      |
| 218 | 女 | 66 | ○         | 婦長がひきずって           |
| 218 | 女 | 75 | ○         | 看護婦が誘導             |
| 218 | 女 | 84 | ×         | 看護婦が誘導して事務長と消防隊が救出 |
| 218 | 女 | 86 | ○         | 看護婦の誘導で消防隊が救出      |
| 218 | 女 | 82 | ○         | 看護婦が誘導救出           |
| 220 | 男 | 72 | ×         | 家政婦と消防隊がかかえて       |
| 220 | 男 | 93 | ×         | 消防隊                |
| 221 | 女 | 83 | ×         | 事務長と看護婦が           |
| 221 | 女 | 74 | ○         | 家政婦が誘導して           |

10. 資料

図-1 付近図

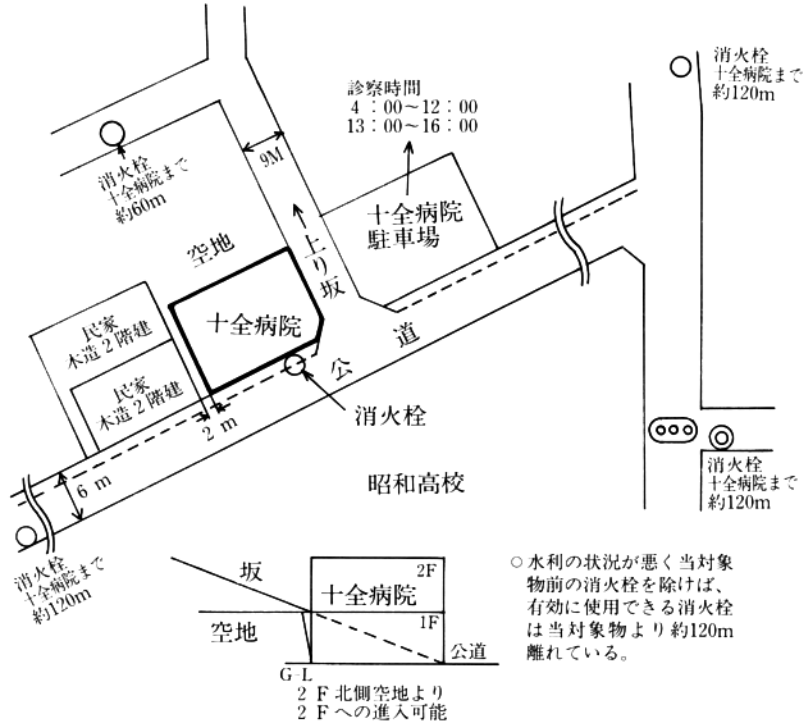


図-2 1階平面図

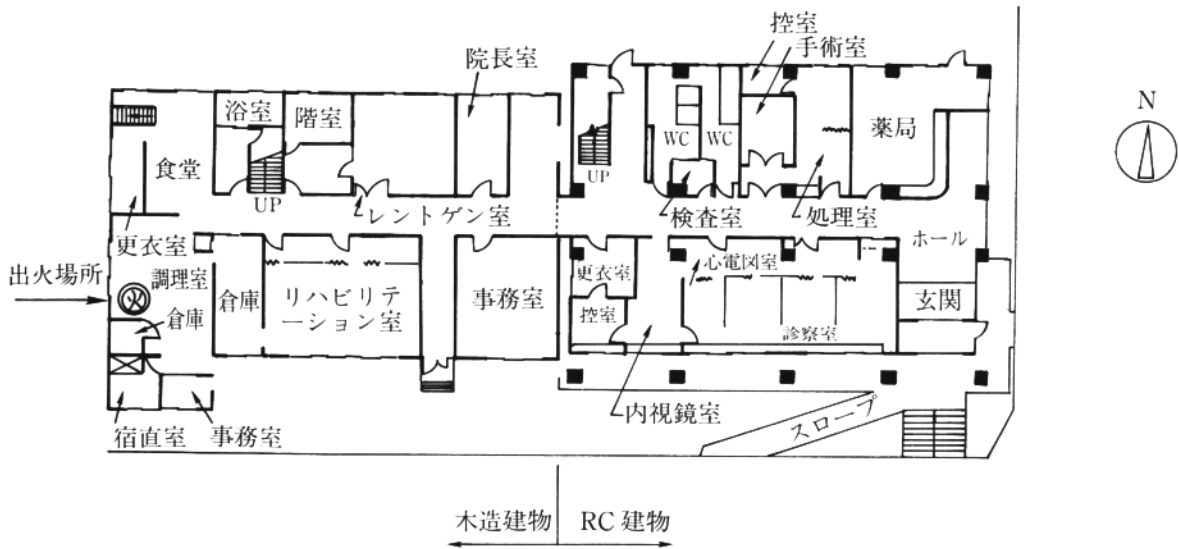


図-3 2階平面図

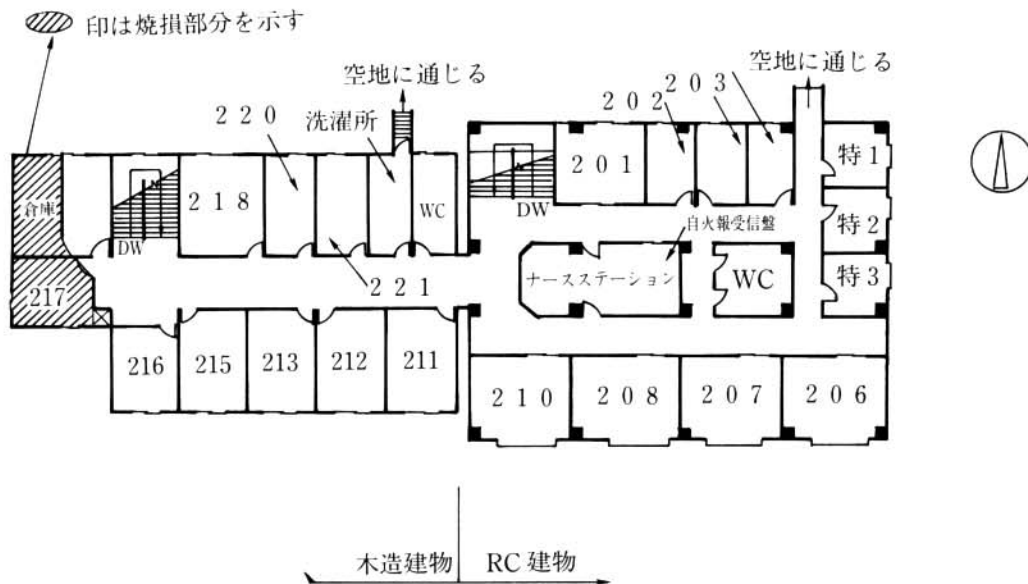


図-4 出火室及び出火箇所の復元図

